

済生会がユニクロと社会貢献活動領域で協力

社会福祉法人済生会(東京都港区、理事長 炭谷茂、以下「済生会」)は、株式会社ユニクロ(山口県山口市、代表者 柳井正、以下「ユニクロ」)と社会貢献活動領域で協力していきます。

済生会は、社会的に弱い立場にある人々を含む、すべての人が地域社会に参加し、共に生きていくという「[ソーシャルインクルージョン](#)」の実現に向けて取り組んでいます。この理念は、SDGsの「誰一人取り残さない」とする理念と同様に、済生会が目指す社会のあり方です。

今般、「ソーシャルインクルージョン」の実現を掲げる済生会は、服を通してあらゆる人の生活をより豊かにする「LifeWear[※]」をコンセプトに掲げるユニクロと協力し、医療・福祉・服を通じて、社会貢献活動を推進していきます。

※ LifeWearとは、あらゆる人の生活をより豊かに、より快適に変えていく究極の普段着、というユニクロが提案する服づくりのコンセプト。

例えば、お客様の声をもとに作られた「[前あきインナー](#)」は、高齢者や介護が必要な方でも脱着しやすい、あらゆる人々の生活に寄り添ったLifeWearの代表的アイテムです。

済生会がユニクロと取り組む活動内容

- 「[前あきインナー](#)」など、あらゆる人に寄り添う商品やサービスの情報発信
- 済生会病院・施設と近隣ユニクロ店舗による健康講座等のイベント開催
- 商品への監修協力
- ユニクロ初の医療施設内店舗として、済生会中央病院内に「[ユニクロ 済生会中央病院店](#)」をオープン
- その他、施設での医療・介護に役立つ商品の訪問販売、ユニクロ店舗でのお買い物イベントの開催など、「ソーシャルインクルージョン」と「LifeWear」を融合した取り組みの実施



済生会ビレッジ内「前あきインナー」展示

(北海道済生会)



「ユニクロ 済生会中央病院店」イメージ図

なお、済生会は、明治44年に明治天皇の「済生勅語」を受けて創設されて以来、医療を受けることが困難な困窮者に対して医薬を施すという「施薬救療の精神」のもと、医療・福祉が届きにくい人々への支援に、1世紀以上にわたり取り組んできました。近年の複雑化、多様化する地域課題と向き合う中で、済生会は医療・福祉に留まらず、誰も排除されない社会を目指し、人と人のつながりを再構築する[ソーシャルインクルージョン](#)のまちづくりへ活動を展開しています。令和3年12月には、社会福祉法人としては初めてジャパン SDGs アワード「[SDGs 推進副本部長\(内閣官房長官\)賞](#)」を受賞し、差別や分断の無い社会の実現に向けて、行政機関、企業、各団体と協力、連携しながらSDGsへ貢献しています。

【本件に関するお問合せ先】 社会福祉法人済生会 事業部 総合戦略課 TEL:03-3454-3076